

風水害について

台風のおおきさと強さ

台風とは、東経180度より西の北西太平洋または南シナ海に発生した、最大風速がおおよそ17m/s以上の熱帯低気圧のことをいいます。

台風の中心付近は気圧が極端に低いため、周りから猛烈な勢いで大気が吹き込み(吹き込む風は地球の自転の関係で左巻き)巨大な渦となります。台風のおおきさは「強風域(風速15m/s以上の半径)」で決められ、強さは「中心付近の最大風速」によって決められます。

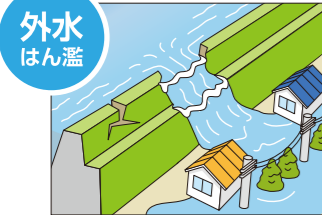
雨や風について

1時間の降り方	1時間の雨量	10mm以上20mm未満	20mm以上30mm未満	30mm以上50mm未満	50mm以上80mm未満	80mm以上
	雨の降り方	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
		一面に水たまりができ、雨音で話し声が聞き取りにくい。	どしゃ降りの雨で小さな河川では、はん濫する危険がある。大雨注意報が発令される。	バケツをひっくり返したような激しい雨で、大雨警報が発令される。土砂災害が起こりやすく、場所によっては避難の準備が必要。	滝のようにゴーゴーと降り続き、傘は全く役にたたなくなる。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。

風の強さと被害の程度	風速/風力	13.9~17.2m/s未満 風力7(強風)	17.2~20.8m/s未満 風力8(疾強風)	20.8~24.5m/s未満 風力9(大強風)	24.5~28.5m/s未満 風力10(暴風)
	被害の程度		傘がさせず、取り付けの悪い看板などが飛ばされる。	小枝などが折れる。大人はかろうじて歩けるが、子供は飛ばされそうになる。	テレビアンテナが倒れ、屋根瓦が飛ばされる。

外水はん濫・内水はん濫

はん濫には川の水などがあふれてしまう外水はん濫と、降った雨を排水しきれずに街中にあふれてしまう内水はん濫の2種類があります。



外水はん濫は、河川の堤防の決壊や、河川水位の上昇によって、河川の堤防から水があふれることです。家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こすことがあります。



内水はん濫は、河川から水があふれるのではなく、降った雨を河川へ排水しきれなくなって、下水道や水路などから水があふれることです。

河内長野市では、内水による浸水区域や浸水深などを取りまとめた「内水ハザードマップ」を作成しております。

詳しくは市のホームページをご確認ください。

河内長野市 内水ハザードマップ

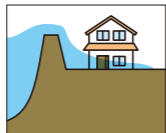
検索



家屋倒壊等氾濫想定区域



河岸侵食
家屋の基礎を支える地盤が流出し、家屋が倒壊するような河岸侵食の発生が想定される区域。



氾濫流
木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流の発生が想定される区域。

※区域の境界は厳密ではなく、あくまでも目安であることに留意してください。※上記区域は、水害リスクにおける早期に立退き避難が必要な区域となります。

情報収集をしっかりと

台風は情報さえ得ていれば、ある程度の予測と準備ができるものです。だからといって油断をせず、聞きもしないよう注意しましょう。

テレビやラジオなどの気象情報をこまめにチェックしましょう。

停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオ(予備の電池も用意する)を用意し、非常持ち出し品、飲料水や食料も準備しておきましょう。

浸水のおそれのあるところは、家財道具や生活用品などを、できるだけ高い安全な場所へ移動させましょう。

地震10のポイント

地震から身を守るポイントは、いつ地震が発生してもあわてないように、日頃から地震時の備えをしておくことです。ここに示す地震時の行動を参考に、どのような行動を取るべきか覚えておきましょう。

地震時の行動

地震だ! まず身の安全



- 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
- 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。



高層階(概ね10階以上)での注意点

- 高層階では、揺れが数分続くことがある。
- 大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



地震直後の行動

落ちついて火の元確認、初期消火

- 火を使っている時は揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 出火した時は、落ちついて消火する。



あわてた行動けがのもと

- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- 瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



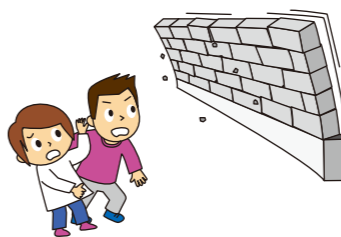
窓や戸を開け出口を確保

- 揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



門や塀には近寄らない

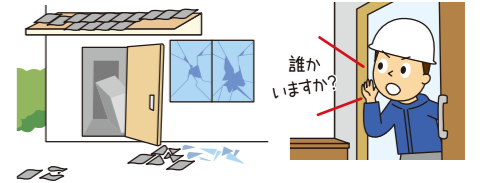
- 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

確かめ合おう わが家の安全、隣の安否

- わが家の安全を確認後、近隣の安否や出火の有無をお互いに確認し合う。



協力し合って、消火・救出・応急救護

- 近隣で火災を発見した場合は、消火器などにより協力し合って消火を行い延焼を防ぐ。
- 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



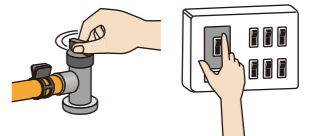
正しい情報、確かな行動

- 行政、放送局、鉄道会社などから発信される正しい情報を得る。



避難の前に安全確認 電気・ガス

- 避難が必要な時には、復電時の電気機器のショートなど、通電火災が発生する可能性やガス漏れの発生を防ぐため、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めてから避難する。



確かな避難

- 地域で大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら声を掛け合い、一時集合場所や避難場所に避難する。



河内長野市では、「想定される地震の規模及び被害の状況(地震ハザードマップ)」を作成しております。

詳しくは市のホームページをご確認ください。

河内長野市 想定される地震の規模

検索

